

# 2020年 IPSJ/ACM Award for Early Career Contribution to Global Research 紹介

## 選定にあたって

岡部 寿男

IPSJ/ACM Award for Early Career Contribution to Global Research 選定委員会委員長／  
京都大学学術情報メディアセンター

情報処理学会(IPSJ)と Association for Computing Machinery (ACM) は、両学会が対象とする研究領域において国際的な研究活動により顕著な成果を挙げた若手研究者を表彰の対象として、IPSJ/ACM Early Career Contribution to Global Research を2018年に創設しました。この賞の目的は受賞者の成果を表彰するとともに、国際的な研究活動の一層の拡大を奨励することです。受賞者は賞状を授与されるとともに、チューリング賞が授与される ACM Banquet へ招待されます。

本賞は、両学会が対象とする研究分野において著しい成果（例：情報技術に関する新しい知見・理論・研究分野の開拓や顕著な発展など）を挙げるとともに、上記成果の代表的な部分を国際的な研究活動（例：国際的共同研究プロジェクトや候補者が海外研究機関と連携して行った活動など、共著論文などによって成果が裏付けられる活動）によって達成した博士号取得後10年以内の若手研究者を毎年1名以内で顕彰するもので、日本国内の大学や公的研究機関または企業に所属する本会の正会員を対象としています。本会論文誌または本会主催の査読付き国際会議で発表実績があることと、国際学会（望ましくは ACM 発行の論文誌または主催の査読付き国際会議）で発表実績があることを要件としています。対象となる研究成果は本会あるいは ACM の発表物には限りません。3回目となる2020年は、2019年12月10日を締切として候補者の募集を行ったところ6名の推薦がありました。本会5名、ACM3名、計8名から構成される選定委員会において慎重に選定を行い、理事会の承認を得て、以下の研究業績に関して下記1名の受賞が決定しました。

**矢谷浩司さん：“Mobile Interactive Systems for Intellectual Productivity Support”**

矢谷さんは、私たちの知的生産性をサポートするモバイルインタラクティブシステムの設計と評価に重要な貢献をしてきました。元々は通信デバイスとして設計されていたスマートフォンを知的生産性サポートツールに変える、さまざまなインタラクティブシステムを開発し検証してきています。具体的には、知的生産性が重要となる3つの活動について深く研究を行いました。1) オンラインのユーザ作成レビューを使用した意思決定、2) プレゼンテーションのリハーサルと配信、3) 大学生の勉強。その研究成果は、計算言語学、アルゴリズム、インタフェース設計を組み合わせたモバイルインタラクティブシステムによる知的生産性サポートの高い有用性を実証しており、国際的にも高く評価されています。

本賞の贈呈は2020年3月の全国大会で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため同大会の現地開催が中止されオンライン開催となったことに伴い、残念ながら表彰式は中止となりました。また、矢谷さんは2020年6月にサンフランシスコで開催予定であった ACM Award Banquet に招待されていましたが、これも延期となっています。

本賞を通して、これからも情報学分野で国際的に活躍する優秀な若手研究者を顕彰していきたいと考えています。この文章が掲載されるころには2021年の候補者推薦募集が行われていると思います。IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award とともに、多くの候補者の方のご推薦をいただけますようお願いいたします。

(2020年7月30日)

# モバイルデバイスを活用した 知的生産性支援研究のその先へ



受賞タイトル

Mobile Interactive Systems for Intellectual Productivity Support

**矢谷 浩司** ● 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻

このたび、IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Researchという賞をいただきまして、大変光栄に存じております。本賞の選考委員の方々、本賞へのご推薦を頂戴した先生、今まで一緒に研究をさせていただいた共同研究者の方々や、研究室の学生さんたちに心より感謝申し上げます。また、これまでさまざまな面で支えてくれた妻と娘に感謝いたします。

私は学部生のころからモバイルデバイスのインタフェース・アプリケーションに興味を持ち、研究を進めてきました。今回受賞をいただいた研究テーマであるモバイルデバイスを活用した知的生産性の支援は、トロント大学で博士課程に在籍し、卒業を間近に控えた時期から取り組み始めたテーマです。それまではインタラクション技術に重点を置いていた私の研究ですが、今後モバイルデバイスがさらに普及することで、ユーザのより複雑な活動を支援することが必要になると考えたからです。Microsoft Research Asiaに研究員として就職後は、同僚であったDr. Darren Edgeとともにプレゼンテーション支援の研究に従事するようになり、その中でもモバイルデバイスを活用したシステムの開発・評価に取り組みました。また、韓国KAISTのDr. Uichin Lee先生とはスマートフォンの使い過ぎを抑制するゲーミフィケーションシステムの研究を共同で行いました。さらに、私自身はモバイルデバイス上における情報可視化インタフェースを通じた意思決定支援システムなどに従事し、結果として知的生産性支援の上に立脚するさまざまな研究プロジェクトに携わることができました。Dr. Darren Edge,

Dr. Uichin Lee先生、さらにはインターンとしてプロジェクトにかかわってくださった学生さんとの共同研究の日々は、今でもはっきりと思い出せるほど楽しい時間でありました。また、このように幅広く研究することを支えていただいた前職のMicrosoft Research Asiaに心より感謝申し上げます。

2020年に入ってから急速に感染が拡大した新型コロナウイルスの影響により、学术界、経済界ともに大きな影響を受け、New Normalと呼ばれる新しい生活様式へと移ることが求められています。このような社会の流れにおいては、知的生産性の支援がさらに重要性を増すものと感じております。一方、リモートワークやリモートラーニングによって、孤独感をより強く感じている個人が増えているとも言われています。今回の受賞も他の研究者とのつながりがあったからこそ頂戴できたものであり、他者とのつながりは知的生産性の支援においても大変重要です。HCIの研究者として、New Normal時代における、人々の新しい働き方、新しい学び方、そして新しい生き方を支える情報科学技術の発展に貢献していきたいと存じております。

(2020年7月15日受付)

矢谷 浩司 (正会員) [koji@iis-lab.org](mailto:koji@iis-lab.org)

2014年8月より東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻准教授。2017年度東京大学卓越研究員に選出。2011年にカナダ、トロント大学より博士号(コンピュータ科学)を取得。